

# 教育研究業績書

2023年10月23日

所属： 共通教育部

資格： 教授

氏名： 西尾 亜希子

研究分野	研究内容のキーワード
教育社会学	高等教育とジェンダー
学位	最終学歴
PhD	Doctoral Studies in Education, Institute of Education (現UCL Institute of Education), University of London

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 卒業生によるセクシュアリティに関する授業の実施	2023年10月16日	「ジェンダーと社会 (3)」および「ジェンダーと社会 (4)」の授業において、LGBTQ+当事者の卒業生（ゲストスピーカー）を招いて授業を行った。授業内容および進行の仕方については2020年とほぼ同じ。
2. アライの学生によるセクシュアリティに関する授業およびワークショップの実施	2022年7月7日	本学の非公認サークル、equALLのアライの大学3年生の学生が講師となり、学び発見ゼミ（大学1年生および短大1、2年生対象）の「はじめて学ぶジェンダー問題」において、受講生らにアンコンシャスバイアスに気づく授業を行った後、図書館5階のジェンダー・セクシュアリティコーナーのサークルメンバーによる活動を展示したブースでワークショップを実施した。
3. 大学2年生による大学学び発見ゼミ（大学1年生対象）における「選挙とジェンダー」の授業	2021年10月25日	昨年に西尾の大学発見ゼミ「はじめて学ぶジェンダー問題」を受講した大学2年生2名から、10月31日の第49回衆議院議員総選挙に先だって、大学1年生に対して、選挙とジェンダーについて資料を作成するので、それをもとにディスカッションしたいという提案があった。若者の低投票率の問題、各政党の同性婚や選択制夫婦別姓等に対する姿勢、投票の仕方などの説明の後、これらのテーマについて全員で活発な議論が行われた。
4. 卒業生によるセクシュアリティに関する授業の実施	2020年11月16日	「学び発見ゼミーはじめて学ぶジェンダー問題」の授業において、卒業生（ゲストスピーカー）が、自らのジェンダー・アイデンティティを紹介しつつ、多様な性に対する理解の大切さについて講義を行った。その後、卒業生と授業の受講生が、多様な性について質疑応答およびディスカッションを行った。西尾はファシリテーターとして進行した。
5. 西宮市男女共同参画課および学生グループGenesisによる「性的同意」に関する授業の展開	2019年11月25日	「学び発見ゼミーはじめて学ぶジェンダー問題」の授業において、西宮市男女共同参画課と学生グループGenesisとの連携により「性的同意」に関する授業を実施した。Genesisはメディア、自治体、高等教育機関でも注目されている学生有志による「新しい性の常識を創ること」を目的とする活動団体である。当日は京都大学法学部の学生2名が中心となり、性的同意の意味、性的同意の取り方、断り方などについて、学生目線でのクイズやディスカッションをまじえたアクティブラーニングや講義が行われた。受講生らは性的同意に限らず、様々な場面での同意の取り方や断り方についても学び、積極的に発言を行っていた。
6. 当事者の学生によるセクシュアリティに関する授業の実施	2019年07月10日	入学直後から様々なジェンダー関連科目を受講してきた学生2名（大学4年生、短大2年生）から「卒業前にセクシュアリティについて当事者として声を発し、自分たちの存在を知ってほしい。そして悩んでいる学生がいれば助けたい。そのための場を提供してほしい」という申し出があった。その声に応え、「はじめて学ぶジェンダー問題」（大学1年生向け学び発見ゼミ）でセクシュアリティに関する講義および質疑応答をもらった。17名の受講生に事前に質問を募集したところ合計37の質問があり、関心の高さがうかがえた。そし

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
7. 仲岡しゅん弁護士によるセクシュアリティに関わる授業の実施	2019年04月25日	て、講義をしてくれた学生らもすべての質問に丁寧に答えた。長い間自らのセクシュアリティについて悩み、苦しんできた学生たちが力をつけ、成長した姿を見せた。 トランスジェンダーの弁護士・仲岡しゅん氏（大阪弁護士会）を共通教育科目「女性の身体とセクシュアリティ」（松並知子非常勤講師担当）と「ジェンダーとアイデンティティー」（西尾担当）の合同授業にゲスト講師として招き、「ジェンダー、セクシュアリティを巡る人権課題」と題して講演していただいた。また当日は読売テレビによるテレビ収録があった。（メディアホール）
8. 米国のデンバー・メトロポリタン州立大学（Metropolitan State University of Denver）で授業実施	2019年03月05日～2019年03月06日	フォーガッシュ（Dr. R. Forgash）デンバー・メトロポリタン州立大学社会学・文化人類学部教授の「クロス・カルチュラル・コミュニケーション」と「アンソロポロジー・オブ・ジャパン」の授業の中で、日本の労働市場における女性の現状や日本人女性の生き方に関する授業を行った。（Cross Cultural Communication class from 2 - 3:15 PM on Tuesday, March 5, Anthropology of Japan class from 9:30 - 10:45 AM on Wednesday, March 6.）
9. 「ジェンダーとアイデンティティー」の授業における西宮市男女共同参画推進課との連携	2018年11月15日	前期に引き続き、後期も西宮市男女共同参画推進課の松井裕行氏と樽谷氏に来ていただき、2017度西宮市民を対象に実施された意識調査の結果報告をしていただいた。特に今回はデートDVの実態、被害者だけでなく、加害者にもならないよう気をつけるべき点についてもお話いただいた。
10. 「女性と教育」の授業における西宮市男女共同参画推進課との連携	2018年05月24日	2017度西宮市民を対象に実施された意識調査の結果報告を西宮市男女共同参画推進課の松井裕行氏にいただいた。西尾は西宮市男女共同参画審議会の委員として、同意識調査の設問や結果の分析・考察などにあたっている。SNSを利用した性犯罪が中高生や大学生の間でも頻発しているが、加害者、被害者ともに何が性犯罪にあたるのかについての認識が弱い。授業では、受講生に対して結果報告を行っていただいた後、質疑応答の時間を設け、性犯罪に対する意識啓発に取り組んだ。
11. LGBT（SOGI）に関する授業の展開	2017年09月15日～現在	いくつかの調査から、LGBTIに該当する人々は約8%と意外に多く、身近な存在であることがわかっている。100名定員の共通教育科目のクラスであれば、8名程度は学んでいる計算になる。実際に学生からのセクシュアリティに関する相談も増えている。そのような背景を踏まえ、自らが担当するジェンダー関連科目においてもLGBTの現状や当事者が直面する問題点などを取り扱うようにし、受講生には「人権」という観点から理解を深めてもらうよう努力している。
12. ミニツペーパー活用による双方向授業の展開	2010年04月～現在	共通教育科目授業の定員は100名であり、双方向的な授業の展開が困難であるが、各授業で数回ミニツペーパーを授業中の課題として課し、次の授業でそのいくつかを紹介し、フィードバックを行ったり、その後の授業の展開に役立っている。
13. レポート・論文の書き方指導	2008年04月～現在	多くの担当科目の評価方法がレポートであるため、授業内で導入部・展開部・結論部などの段落の設け方や参考文献の挙げ方を指導している。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 『若手研究者のためのインフォーマル英会話ハンドブック（Informal English Guidance for Young Researchers）』の冊子版作成・刊行	2023年3月22日	吉田徹（編著）、A.L. エイデン、吉川紀子、西尾亜希子（著）2022年に刊行したものを加筆修正し、冊子版（全面カラー刷り）として刊行した。
2. 『若手研究者のためのインフォーマル英会話ハンドブック（Informal English Guidance for Young	2022年3月22日	吉田徹（編著）、A.L. エイデン、吉川紀子、西尾亜希子（著）

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
Researchers』の作成・刊行		女性活躍総合研究所グローバル推進化のメンバーで、海外で学会報告をする際やその前後の研究者交流等の場において気をつけたい英語の発音や表現、立ち居振る舞いについて議論を重ね、刊行に至った。まずは学内の教職員から本ハンドブックに対する意見を集め、修正を重ねる予定。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 国際女性デーMUKOJOフォーラムにおける基調講演の実施	2021年3月6日	「キャンパスとSDGsー ジェンダー平等のために」と題して、国内外の研究に触れつつ、SDGsが掲げる17のゴールのうち、「女性」に焦点を絞り、教職員、生徒・学生にとってジェンダー平等なキャンパスのあり方について検討した。（中央キャンパス 公江記念館B1大講義室） WEFのジェンダーギャップ指数2020で、日本は教育分野で153か国中91位と低位置にあり、その背景に親の期待や教育投資の男女差、学校の規則や教職員の何気ない言動に潜むジェンダーバイアス等があることを指摘した。また、こうした負の影響が男女の職域分離や賃金格差を助長して、女性の貧困化リスクにつながっていることを指摘した。このような状況を打破するためにも、まずは全管理職に対して30%（クリティカル・マス）にあたる女性の登用の必要性と、教職員や親はジェンダー・バイアスのある言動を避けること、生徒・学生には「子どもを産んだら仕事を辞める」リスクを教え、（可能な限り）その選択を避けさせる必要性を唱えた。
2. FD委員会主催「LGBTsフリートークの会」の講師	2019年11月21日	LGBTに関する理解の啓発を目的としたLGBTs当事者の学生3人と教職員の意見交換会「先生知って！LGBTs当事者学生の本音ー身近にいることを知ってほしい」において、意見交換会に入る前にLGBTsの基礎理解に関する講義を実施した。L2-32
3. LGBTに関する理解の啓発を目的とした教職員向け講義の実施	2017年07月10日	平成29年度共通教育懇談会で共通教育科目担当者を中心とする教職員を対象に「LGBTを理解する」というテーマでミニ講義を行い、当事者に対する理解の啓発を努めた。学生や教職員を含め、身近にLGBT当事者がいる可能性が高いことを認識してもらうため、人口比率を明らかにした後、LGBTの定義および定義をめぐる議論、LGBTの現状と課題等について講義した。（武庫川女子大学中央キャンパス）
4. 2011年度鳴松会文化祭協賛・教養講座 講師	2011年11月	学生、教職員、市民を対象に「『女性はお金に疎い』ことがなぜ問題なのかーアメリカからの警鐘」と題して講義を行なった。（武庫川女子大学中央キャンパス）
5. 西宮市大学交流センター共通単位講座 講師	2010年04月～2010年09月	西宮市内の大学に通う学生や社会人に対して、日本社会における基本的なジェンダー問題について講義した。（西宮市大学交流センター）
6. 金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー主催プログラム 講師	2008年10月24日	共通教育科目「ジェンダーと教育ージェンダー学実践編」を担当した。同大学の学生に対するオムニバス形式の授業の講師の一人として、教育におけるジェンダー問題について講義した。（金沢大学角間キャンパス）
7. 甲南大学文学部の「ジェンダー論」 講師（ゲスト講義）	2002年01月17日および2004年01月15日	上村くこ文学部教授担当「ジェンダー論」の授業において、隔年で高等教育とキャリアに関する講義を行った。大卒者のキャリアパスについてジェンダー的観点から考察した。（甲南大学岡本キャンパス）
<b>4 その他</b>		
1. 女性活躍総合研究所 グローバル化推進部門 研究員	2020年04月01日～ 現在	グローバル化推進部門の研究員として、研究者の国際学会等での活動の支援を行うべく、国際フォーラムの開催や英語資料の作成にあたっている。
2. 武庫川学院 男女共同参画推進室 専門委員	2018年04月01日～2020年03月	専門委員として、ラビークラブの運営や教職員や学生

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3. 教育研究所 研究員	31日 2009年04月01日～現在	らからのさまざまな相談事項について協議した。研究員として論文の執筆をしたり、新学部開設に関する調査や報告書作成などに関わっている。
4. 学生生活、留学・大学院等への進学に関する相談受付	2009年04月～現在	学生からの相談内容は、学生生活全般、語学留学、アカデミック留学、短大から大学への編入、就職、英語の勉強の仕方など実に多様である。留学生からの勉強の仕方に関する相談も多い。可能な限り時間を割き、相談にのるよう心がけている。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 新宮市人権・同和教育研究会協議会講演会 講師	2023年8月2日	新宮市の幼稚園～高校までの教員約200名に対して「LGBTQ+と今日的な人権課題」と題して講演を行った。児童・生徒の自殺が増加傾向にある中、特にLGBTQ+の児童・生徒はそのリスクが高い。新宮市の教職員にLGBTQ+に関する用語や概念の説明をした上で、LGBTQ+の児童・生徒が置かれている現状と課題について明らかにし、望ましい対応法について提示する。(丹鶴ホール)
2. 伊丹市立伊丹高等学校におけるキャリア教育 講師	2023年7月12日	高校生向けキャリア教育の実施 対象：全校生徒695人(男子237人、女子458人)、(GC合計117人、普通科合計471人、商業科合計107人)
3. 伊丹市立男女共同参画センター指定管理者選定委員会 委員(有識者)	2022年9月～2022年12月	伊丹市立男女共同参画センターの運営について、指定管理者制度に従い、指定管理者の選考を行なった。指定管理者の選定に当たり選定委員会を設けており、その委員に就任、選定にかかわる募集要項(案)や仕様書(案)の点検、および指定管理者の選定を行った。
4. 公益財団法人 日本ボーイスカウト日本連盟 理事	2022年5月27日～	理事の立場から、ジェンダーやセクシュアリティに関わる対応のあり方について意見を述べる。
5. 自治労京都府本部男女がともに担う府本部委員会 学習会 講師	2022年5月21日	京都府内の自治体職員や公共サービスを提供する民間職場の職員らに対して「誰のためのジェンダー平等か」と題して講義を行った。内容としては、今日、ジェンダー平等をめぐるのは、女性が直面する問題はいうまでもなく、男性のひきこもり、過労死、自殺、LGBTQ+の人々のSOGIEハラスメント被害、自殺も深刻であり、ジェンダー平等に反発したり、無関心になっている場合ではなく、誰にでも関わる問題であり、さまざまな方向から関わるべき問題であることを明らかにした。
6. 伊丹市男女共同参画推進センターここいろ ミモザの日講演会 講師	2022年3月6日	伊丹市男女共同参画推進センターここいろの市民企画「データから考えてみる専業主婦の理想と現実」について講演した。専業主婦は世帯所得が2極化しており、満足感も異なる現状や女性の就業形態により生涯所得等が異なることや法律・制度の変化等について示し、健康である限りは専業主婦になることについて慎重になるように伝えた。また、リカレント教育の広がりや情報へのアクセスの仕方等についても紹介した。
7. 豊中市男女共同参画審議会 委員(職務代理者)(学識経験者)	2022年1月20日～2024年1月19日	男女共同参画を推進する事業、令和4年度第3次豊中市男女共同参画計画の進捗状況、男女共同参画施策等について審議する。
8. 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟全国大会 全国スカウト教育会議(テーマ集会) 講師	2021年5月30日	「SDGsとスカウティングの現在と未来」と題して、全国のボーイスカウト指導者・成人会員向けに、SDGs、ジェンダー、性の多様性に関する視点から現在の活動を点検し、今後取り組むべき課題について講演する。
9. 伊丹市男女共同参画審議会 委員(学識経験者)	2020年12月28日～2022年3月	「第3期伊丹市男女共同参画計画」策定のための審議

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
10. お茶の水女子大学ジェンダー研究所『ジェンダー研究』査読委員	31日 2020年03月07日～2020年04月06日	投稿された論文の査読を担当。
11. 豊中市男女共同参画審議会 委員（学識経験者）	2020年1月20日～現在2022年1月19日	「男女共同参画推進にかかる市民意識調査」の実施および結果の分析、「第3次豊中市男女共同参画計画、第3次豊中市DV対策基本計画」の策定など 令和2年1月20日～令和4年1月19日
12. 伊丹市役所男女共同参画推進リーダー（課長）向けオンブード報告&ワークショップ担当	2019年11月12日	今年度のオンブードの聞き取り対象となった伊丹市役所の各部署の男女共同参画推進リーダー（課長級）に対し、『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成30（2018）年度事業内容』の報告とワークショップを実施した。西尾亜希子、星野郁子、中田亜紀子（伊丹市役所）
13. 伊丹市立男女共同参画センター指定管理者選定委員会 委員（有識者）	2019年08月06日～2019年10月31日	伊丹市立男女共同参画センターにおける指定管理者制度を令和2（2020）年度より導入することに伴い、指定管理者の選考を行なった。指定管理者の選定に当たり選定委員会を設けており、その委員に就任、選定にかかわる募集要項（案）や仕様書（案）の点検、および指定管理者の選定を行った。
14. 西宮市男女共同参画推進委員会 副会長（有識者）	2019年07月30日～現在	西宮市男女共同参画プランの作成、点検、改善、および市民・事業所意識調査の作成・実施、DV対策基本計画策定などに関する助言を行っている。
15. 伊丹市役所男女共同参画職員研修会 講師	2019年07月09日	伊丹市男女共同参画施策市民オンブードメンバーとして、「男女共同参画とハラスメントー男女共同参画施策研修」と題して課長級の職員に講習を行った。中田亜紀子、星野郁子、西尾亜希子（伊丹市役所）
16. 『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成30（2018）年度事業内容』の執筆	2019年6月2019年11月	伊丹市男女共同参画市民オンブードメンバーとして『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成30（2018）年度事業内容』を執筆した。西尾亜希子、星野郁子、中田亜紀子
17. 伊丹市男女共同参画審議会 会長（学識経験者）	2019年05月～2019年11月	「伊丹市DV防止・被害者支援計画（第2期）」の見直し・第3期計画策定のための審議会への出席と伊丹市長への答申を行う。
18. 伊丹市役所の男女共同参画職員研修会 講師	2019年02月26日	伊丹市男女共同参画施策市民オンブードメンバーとして、「ライフプランから見る女性の多様な生き方とメリット・デメリット:男女共同参画社会を健やかに生きるために」と題して主査級以下の職員に講習を行った。西尾亜希子、星野郁子、中田亜紀子（伊丹市役所）
19. 『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成29（2017）年度事業内容』の執筆の報告	2018年11月02日	伊丹市男女共同施策市民オンブードメンバーとして人事研修課、学校指導課、自立相談課、まちづくり推進課、社会福祉協議会、地域・高年福祉課、介護保険課、同和・人権推進課（女性・児童センター分含む）への聞き取り調査をもとに執筆した『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成29（2017）年度事業内容』について、藤原保幸市長を本部長とする伊丹市男女共同参画推進本部会議および伊丹市人権教育・啓発推進本部会議で報告を行ない、市長や部長らと意見交換を行った。（伊丹市役所）
20. 『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成29（2017）年度事業内容』の執筆	2018年06月～2019年02月	伊丹市男女共同参画市民オンブードメンバーとして『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成29（2017）年度事業内容』を執筆した。西尾亜希子、星野郁子、中田亜紀子
21. 伊丹市男女共同参画施策市民オンブード（学識経験者）	2018年05月01日～ 2020年03月31日	伊丹市男女共同参画施策市民オンブード設置要綱に基づく業務（「第2期伊丹市男女共同参画計画」の進捗状況の調査（各課・センターの責任者に対するヒアリング調査の実施など）、調査報告書の作成、調査内容の報告等）。
22. 米国スミス・カレッジ関係者への面接調査の実施	2017年11月05日～2017年11月12日	科研費関連研究の一環として米国における有名女子大学の1校である同校で実施されている金融教育の動向

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
23. 西宮市時事講座 講師	2017年09月05日	について面接調査を実施した。また、LGBT学生の受け入れや学生生活の現状などについても面接調査を実施し、マウント・ホーリーヨーク・カレッジやシモンズ・カレッジでも資料を収集した。
24. 「働き方改革」の実現に向けて一非正規雇用者を主体とした図書館運営の課題」 講師	2017年08月02日～2017年08月03日	西宮市民を対象とした講座「えっ、世界で111位？男女共同参画社会をめざして」の講師を担当した。世界経済フォーラムが2016年に公表した「「グローバルジェンダーギャップ指数2016」によると日本の男女平等ランキングは144か国中111位であり、経済、教育、政治、保健の4分野のうち、経済、教育の評価が特に低かった。評価の内容、問題点、解決策を明示した。西宮市学文公民館主催。（西宮市学文公民館）
25. 川西市男女共同参画審議会 副会長（有識者）	2017年05月31日～現在	図書館関係者、自治体関係者らを対象とした武庫川女子大学・株式会社図書館流通センター共催セミナーで、「日本型雇用システムの視点から見る女性の活躍と雇用」と題して、特に女性非正規雇用者の現況（労働環境や不安など）に焦点をあてつつ、女性非正規雇用者および図書館や自治体の双方にとってメリットのある働き方改革の方法について述べた。（8月3日13:00-14:30 武庫川女子大学日下記念マルチメディア館）
26. 伊丹市男女共同参画審議会 委員（有識者）	2015年07月01日～2017年06月30日	市民意識調査の作成や結果の分析および条例案の作成などを通じて市への提言を行っている。
27. 兵庫女子教育セッション2015 講師	2015年05月30日	委員としてDV対策基本計画策定等に当たった。
28. 英国におけるパーソナルファイナンス教育導入の主導者および担当主任への面接調査の実施	2014年04月26日から2014年05月03日	中学・高校受験を考えている生徒や保護者を対象に「今だから必要な女子教育とは一親世代と異なる時代を生きるために」と題して1時間の講演を行った。（芦屋ラポルテホール）
29. Special Japanese Editorial Assistant of GALE Journal	2012年11月01日～2013年10月31日	英国では2014年秋から中等教育におけるパーソナルファイナンス教育が必修化された。必修化に至るまでには様々な議論が展開され、困難を極めた。日本ではすでに金融・経済教育が必修化されているが、時間の確保や教員の知識不足など、様々な問題が指摘されている。科研費関連研究の一部として、英国におけるパーソナルファイナンス教育の導入の主導者と実際の現場で担当主任になることが決定している教員らに現状と課題について半構造化面接調査を実施し、日本の今後の教育のあり方に関する示唆を得た。（pfeg London）
30. 2011年度鳴松会文化祭協賛・教養講座 講師	2011年10月23日	GALE Journal の日本語編集（日本語訳）アシスタントとして、掲載論文の要旨の日本語訳の編集を行った。
31. 寝屋川市男女共同参画推進センターふらっとねやがわ学習講座 講師	2011年03月13日	学生、教職員、市民を対象に「『女性はお金に疎い』ことがなぜ問題なのか — アメリカからの警鐘」と題して講義を行なった。（武庫川女子大学中央キャンパス）
32. 西宮市男女共同参画推進委員会 委員（有識者）	2009年04月01日～ 2019年06月31日	「名前は最初のプレゼント」と題して、性別や流行にとらわれるのではなく、ひとりの人間として子どもへの思いを込め、命名することの大切さについてジェンダーの観点から講義を行った。（寝屋川市男女共同参画推進センターふらっとねやがわ）
33. 西宮市男女共同参画センターウェブ主催講座 講師	2008年12月12日	委員として西宮市男女共同参画プランの作成や市民・事業所意識調査の作成・実施、DV対策基本計画策定などに関する助言を行っている。
34. 川西市役所の男女共同参画職員研修会 講師	2006年11月08日	「多様化する家族—イギリスに学ぶ家族支援のあり方」と題した講座を担当した。ブレア政権における社会保障制度の拡充やその効果、さらには問題点について、特に社会的排除に焦点をあてて検討し、日本への示唆について明らかにした。（西宮市男女共同参画センターウェブ）
		「日本およびフランスにおける『ジェンダー』政策の

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
35. 川西市男女共同参画審議会 委員（有識者）	2005年04月01日～2017年03月31日	現状：家族政策を中心に」というテーマで、同市役所の課長級以上の職員に対してジェンダーに関する基礎知識および日仏のジェンダー政策について特に家族政策の観点から講義を行った。（川西市役所） 審議会委員として川西市男女共同参画プランの作成、市民意識調査の作成・実施、DV対策基本計画策定、男女共同参画推進条例などに関する助言、ニュースレター用の記事を執筆してきた。
36. 宝塚市男女共同参画審議会 委員（一般公募）	2002年04月01日～2005年03月31日	審議会委員として宝塚市男女共同参画プランの作成や市民意識調査の作成・実施などに関する助言を行った。
37. 大阪府女性総合センター（ドーンセンター）『Dawn』編集委員	2001年04月01日～2003年03月31日	海外向け機関誌『Dawn』の記事執筆および編集を行った。
<b>4 その他</b>		
1. 「交際相手は『県外への転勤がない人』強い地元志向は誰の影響？」朝日新聞デジタル掲載	2022年3月9日	三菱UFJリサーチ&コンサルティングが2017年12月に、愛知県は18年1月に、18～39歳の女性を対象に、大学などに進学する際に誰の意見を参考にしたか、東京圏に転出した人75人と転出せず愛知県にとどまった人173人に意識調査を行った。その結果として、母親の影響が強いことについて教育社会学の見地から意見を述べた。
2. 「海外の校則から学ぶこと」神戸新聞紙面掲載	2019年11月24日	米国、カナダ、ニュージーランドの公立中高一貫校（一部高校）6校の校則に関する調査結果について報告し、日本の公立中・校の校則見直しの提案を行った。
3. 「『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成30（2018）年度事業内容』報告」伊丹ケーブルテレビ出演	2019年11月15日	伊丹市男女共同施策市民オンブードメンバーとして人事研修課、学校指導課、自立相談課、まちづくり推進課、社会福祉協議会、地域・高年福祉課、介護保険課、同和・人権推進課（女性・児童センター分含む）への聞き取り調査をもとに執筆した『伊丹市男女共同施策 市民オンブード 平成30（2018）年度事業内容』について、星野郁子委員、中田亜紀子委員とともに出演した。
4. 「黒以外の髪なら『地毛証明書』下着の色指定 はびこる“ブラック校則”」神戸新聞紙面掲載	2019年07月02日	わが国には「ブラック校則」といわれる外国からみても非常に厳しく、理不尽な校則が数多く存在する。30年以上前からこのような校則に関する研究が存在し、罰則に対する裁判も起きている。文部科学省も学校に対して適宜見直すように求めているが、状況は改善していない。特に西尾は真冬にコートやタイツの着用を原則禁止している学校が少なくないことを明らかにし、体の冷えはホルモンバランスの乱れや血行不良、免疫力の低下、集中力の低下など様々な問題を引き起こすどうか校則について、早急な見直しを訴めた。  本記事はサンテレビ2019年7月2日放送「情報スタジアム4時！キャッチ」で「冬でも半袖半ズボン！？ 不可解な『ブラック校則』」と題して林芳樹神戸新聞社特別編集委員兼説顧問により紹介された。
5. 「性別で格差、違和感もって 西尾亜希子さん」朝日新聞紙面掲載	2018年10月19日	2019年3月8日の国際女性デーに合わせて組まれた特集'Dear Girls'の連載記事「大学進学への機会 男女で平等？」のうちのひとつ。他に四本裕子東京大学院大学院総合文化研究科准教授による「地方の女子の現実、知って」、山口一男シカゴ大学教授による「学歴より性別で雇用格差」が掲載された。
6. 「お母さんも行ってないから… いまだに残る進学の壁」朝日新聞デジタル掲載	2018年10月11日	2019年3月8日の国際女性デーに合わせて組まれた特集'Dear Girls'の連載記事「大学進学への機会 男女で平等？」のうちのひとつ。他に四本裕子東京大学院大学院総合文化研究科准教授による「なぜ女子に家賃補助？ 東大男子が知らない進学不平等」、山口一男シカゴ大学教授による「どうせ稼げぬなら学歴より家事

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
7. 西尾亜希子 (2010) 「女子の大学進学に伴う諸効果に関する考察：広義の人的資本論によるアプローチ」『武庫川女子大学教育研究所 研究レポート』の引用	2016年	育児…女性差別は合理的か」が連載された。姉川恭子 (早稲田大学大学総合研究センター) 「社会的評価における早稲田大学の位置付けと戦略的ベンチマーキングに関する研究：女子学生の進学動向をめぐって」の6頁で引用。
8. 引用実績 学術論文 西尾亜希子(2012)「女性のキャリアと金融リテラシー スミス・カレッジの金融教育からの示唆」、『武庫川女子大学教育研究所研究レポート』42号の引用	2015年	千々松 愛子, 内藤 和美「大学の学部教育・教養教育における保険教育の意義—保険学教育の観点から」『損害保険研究』77 巻、4号、34-35頁で引用。
9. 引用実績 学術論文「日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察」(査読付)の引用	2014年4月	赤崎美砂(2014)「発展する留学成果意識—日本人成人女性の生活設計と留学」淑徳大学編『国際経営・文化研究』vol.18, No.2, 1-14頁で引用。
10. 引用実績 学術論文「英国大学院で学ぶ日本人留学生の動向—ジェンダーの視点から」	2013年	鈴木寿子 (2013)「女性の大学院留学生はどのように日本留学を開始、継続、終結するのか」お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』8-19頁で引用。
11. 引用実績 博士論文'Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender'の引用	2012年	Wisker, G. (2012)The Good Supervisor: Supervising Postgraduate and Undergraduate Research for Doctoral Theses and Dissertations (Palgrave Research Skills), Palgrave Macmillan, 324頁で引用。
12. 引用実績 学術論文「日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察」(査読付)の引用	2008年12月	小林葉子 (2008)「エンパワメントとしての英語力とジェンダー：多学問的視座からTESOLへの示唆」岩手大学人文社会科学部『アルテス リベラレス』1-11頁で引用。
13. 引用実績 学術論文「日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察」(査読付)の引用	2008年	神谷浩夫、由井義通他 (2008)「オーストラリアで学ぶ日本人留学生のライフコース」愛知教育大学『地理学報告』106, 1-14頁で引用。
14. 引用実績 博士論文'Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender'の引用	2007年	Leonard, D. (2006) 'Early career academics' doctoral experiences' SRHE Symposium 11th December 2007, 3頁で引用。
15. 引用実績 博士論文'Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender'の引用	2001年	Leonard, D. (2001) A Woman's Guide to Doctoral Studies, Open University Press, 26頁で引用。
16. プリティッシュ・カウンシル・フェロー	1997年09月～1998年08月	ロンドン大学教育研究所 (Institute of Education <現UCL Institute of Education>, University of London) 教育学専攻 博士課程(Doctoral Studies in Education)に在籍中、フェローとして研究奨学金を受給。
17. ロータリー財団国際親善奨学金受給	1994年09月～1995年08月	ロンドン大学教育研究所 (Institute of Education <現UCL Institute of Education>, University of London) 女性と教育専攻修士課程 (MA in Women and Education) 在籍時に受給。勉強に勤しむことと国際親善大使として日本の文化を英国に紹介するという責務を負っていた。そのため、長期休暇や週末を利用して、ロンドン市内およびロンドン郊外のロータリークラブ6カ所を訪問し、自らが準師範免状を取得している生派生田流箏曲の歴史や楽器としての箏の歴史や音を奏でるしくみなどについて講演し、邦楽に関心を持ってもらうよう努力した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. フランスに学ぶジェンダー平等の推進と日本のこれから—パ	共	2022年1月20日	明石書店	ISBN978-4-7503-5424-1 第IV部 第2章「若者の政治参画の現状と課題—主権者教育の広がり」と『学校内民主主義』の必要性」249-260頁担当。



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
リテ法制定20周年をこえて				富士谷あつ子・新川達郎編著、井谷聡子、ジュール・イルマン、藤野敦子、シモン・サルヴラン、牧陽子、伊藤公雄、香川孝三、佐々木正徳、小縣早知子、斎藤真緒、上杉孝實、西尾亜希子、塚本利幸、大東貢生、西野悠紀子
2. 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	共	2021年6月	ミネルヴァ書房	ISBN978-4-623-09084-6 ジェンダー、性自認、性的指向、クエスチョニング、アセクシュアル、アライ、パンセクシュアル、シスジェンダー等の用語について執筆担当した。編集委員は中坪史典、山下文一、松井剛太、伊藤嘉余子、立花直樹。
3. Widening Participation in the Context of Economic and Social Change (査読付投稿論文による書籍)	共	2017年6月	Forum for Access and Continuing Education (FACE), London, England: University of East London.	ISBN:9780995492219 ” Undergraduate student perceptions of personal finance in Japan: A comparison across genders and major fields of study”, pp. 193-210. 2016年6月に第23回FACE大会(クイーンズ大学、英国ベルファスト)で口頭発表した研究を論文にまとめたもの。科学研究費補助金(2012-2014)関連の研究の成果の一部として、関西の3大学で学ぶ56名の大学生がパーソナルファイナンスの捉え方の共通点と相違点についてジェンダーと専攻分野の観点から考察を試みた。Annon, P, Lukadi, M, Warner, A, Bunn, R. J., Nishio, A 他。
4. アクティブ・ラーニングで学ぶジェンダー	共	2016年03月	ミネルヴァ書房	第8章「キャリアと金融リテラシー-人生設計の視点を学ぶ」担当。これまでのキャリア教育は企業分析、適正、キャリア発達などを重視する傾向があったが、本章ではライフプランニングの視点を重視する新たなアプローチの重要性を説き、実際にそれを学習できる構成にしている。編著者は青野篤子。執筆者は宇井美代子、上野淳子、赤澤順子、神前裕子、水澤慶緒里、井ノ崎敦子、松並知子、西尾亜希子、荻野佳代子、滑田暢子、土肥伊都子、澤田忠幸。
5. アジアのなかのジェンダー第2版	共	2015年05月	ミネルヴァ書房	第1章「ジェンダーを考える視座」1-17頁、第6章「貧困化する女性-貧困予防策を探る」127-149頁担当。編著者は川島典子、三宅えり子。他の執筆者は岡本民夫、西尾亜希子、岩田正美、松並知子、富田安信、大塩まゆみ、今井小の実、中村艶子、佐伯順子、細見三英子、佐々木正徳、喜多村百合、香川孝三。『アジアのなかのジェンダー』を2012年に刊行して以降、日本を含むアジア諸国の社会情勢が大きく変化したことに伴い、データや考察をアップデートしたものである。
6. アジアのなかのジェンダー	共	2012年5月	ミネルヴァ書房	ISBN978-4-623-06310-9 第1章「ジェンダーを考える視座」1-16頁、第6章「貧困化する女性-貧困予防策を探る」107-129頁の執筆、および他9章の編集作業を行った。第1章は「ジェンダー」ということばが使われるようになるまでの歴史的背景やことばの定義をしっかりとまとめている研究が少なく、その整理が必要という認識から執筆している。第6章は西尾の研究テーマをわかりやすくまとめたものである。編著者は川島典子、西尾亜希子。他の執筆者は岡本民夫、岩田正美、松並知子、富田安信、大塩まゆみ、今井小の実、中村艶子、佐伯順子、三宅えり子、細見三英子、佐々木正徳、喜多村百合、香川孝三。
7. 異文化間教育の研究	共	2008年12月	ナカニシヤ出版	第15章「異文化間教育における『ジェンダー』についての一考察」299-315頁担当。小島勝龍谷大学文学部教授が研究代表者を務めた科学研究費助成金 基盤研究(B)「異文化間教育に関する横断的研究-共通のパラダイムを求めて」に研究協力者として参加してきた。その研究の総括である。異文化間教育研究においてこれまでなされてきた「ジェンダー」に関わる研究を整理し、ジェンダー研究が展開してきた本質主義をめぐる議論がそれに与え得る示唆を明らかにすることを試みている。小島勝編著、佐藤郡衛、塚本美恵子、村田雅之、山本雅代、徳井厚子、足立祐子、井狩幸男、末藤美津子、加藤三保子、廿日出里美、小澤理恵子、鈴木一代、とも利枝子、馬淵仁、松尾知明、渋谷真樹、西尾亜希子、出羽孝行、白土悟。
8. Information Technology and Economic	共	2008年10月	Hershey, PA: Information Science	ISBN:9781599045795 ” Chapter XX The significance of the existence of women’s colleges and their entry into science-related fields” PP.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
Development (査読付投稿論文による書籍)  9. 女が変わる男が変わる100冊の本	共	1997年10月	かもがわ出版	Reference.  278-290を執筆。女性の科学分野進出を考える時、女子大学はどのような役割を果たしてきたのか、そして果たし得るのかについて日本、アメリカ、韓国の先行研究や事例などを参考に執筆した。Kurihara, Y., Takaya, S., Harui, H., Kamae, H., Karatas, M., Bekmez, S., Nakagawa, R., Aslam, M., Siems, T.F., Gapen, M., Nishio, A., Papaioannou, M. 富士谷あつ子・伊藤公雄編著、かもがわ出版。女性学・男性学・ジェンダー学に関わる執筆者のひとりとして、大学時代に感銘を受けた著書『シンデレラ・コンプレックス』74-75頁、『津田梅子』82-83頁、『美の陰謀』76-77頁や、女子教育を研究する上で興味深い『女子大学論』78-79頁、『才女考』80-81頁、メディアの影響力を考える上で役立つ『雑誌文化の中の女性学』84-85頁の計6冊の概要を記し、紹介した。浅田豊、安藤明人、角村正博、野口芳子、森池日佐子、上杉孝實、西尾亜希子、村岡洋子。
<b>2 学位論文</b>				
1. Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender	単	2001年08月	University of London	博士論文。総頁数337頁。ロンドン大学大学院で学ぶ日本人留学生に対して質的調査、主にインタビューを実施し、彼らが私生活面や学業面で直面する問題を中心にジェンダーの視点から考察した。
<b>3 学術論文</b>				
1. 大学の自殺対策にみられる消極性に関する試論ー潜在するLGBTQ+の学生の自殺予防のために	単	2023年1月	武庫川女子大学教育研究所 研究レポート、第53号	ベネット(Milton Bennett)の異文化感受性モデル(A Developmental Model of Intercultural Sensitivity、以下DMIS)および山本(2014)において明らかにされている日本での異文化感受性の表れ方の特徴を用いて、大学の自殺対策にみられる消極性について論理的な説明を試みた。41-51頁。
2. 女性にとっての職業資格の経済的効用および非経済的効用ー女子大学で取得可能な国家資格を中心に	単	2018年03月	武庫川女子大学教育研究所『研究レポート』48号	「資格を取っておくと就職、転職、復職に有利」とよくいわれるが、本当か。実際には資格の効用については良く知られていないのではないか。女子大学で取得可能な国家資格を中心に、それらの資格の効用について経済的側面と非経済的側面から検討した。103-119頁。
3. 女子大学生のキャリアプラン選択の規定要因ー稼得意識、進路選択に対する自己効力、自尊感情、職業観	共	2018年03月	神戸女学院大学『女性学評論』第32号	「貧困の女性化」が大きな問題となっていることを受け、女子大学生のキャリアプラン選択の傾向やその要因について検討した。その結果、経済的な自立志向ややりがいを求める職業観が稼得意識に関連する一方、プライベートを優先しすぎたり、職場での人間関係などを重視しすぎることで、稼得意識の喪失につながる可能性があることが示唆された。稼得意識を高めるような新たなキャリア教育を開発する必要性が示された。25-52頁。松並知子・西尾亜希子。
4. Career Planning from a Financial Perspective: An Investigation into Female Students' Attitudes to Work, Family and Money (査読付)	共	2012年09月	The Journal and Proceedings of GALE (5)	関西の女子大学・短期大学で学ぶ学生428名を対象に将来のキャリアプランおよび金銭感覚についてアンケート調査を実施し、結果を考察して、若い女性の将来設計の危うさについて明らかにし、ジェンダー教育および金融教育のあり方について検討を試みた。38-58頁。、西尾亜希子、松並知子。
5. 女性のキャリアと金融リテラシーースミスカレッジの金融教育からの示唆	単	2012年03月	武庫川女子大学教育研究所 研究レポート、第42号	金融リテラシーとは何か、なぜ女性こそその能力が必要と言われてなのか、具体的にどのような教育が可能なのかについて、先行研究、アメリカ人女性の現状、アメリカのスミス・カレッジにおける教育実践を参考にしつつ、日本の大学における教育実践への示唆を得た。87-105頁。
6. 社会的排除と高等教育政策に関する国際比較研究ー高等教育の経済効果の視点から	共	2010年09月	(財)全労災協会『公募研究シリーズ』公募委託調査研究成果報告	貧困問題から社会的排除問題へ視点がシフトしている理由の整理を行なった。また、英国のブレア政権下では、社会的排除問題を高等教育政策の中で取り扱い、大学進学を希望する者を育て、その希望を叶えてきたが、その背景にはどのような理論が存在するのか、どのような効果があったか、課題は何かを中心に議論している。第2章

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
7. 女子の大学進学に伴う諸効果に関する考察—広義の人的資本論によるアプローチ	単	2010年03月	武庫川女子大学教育研究所 研究レポート、40号	「社会的排除対策の理論的基盤」18-26頁、第4章4節「日本版フレキシキュリティ社会は可能なのか」49-52頁執筆担当。高屋定美、西尾亜希子。 大学進学率には依然として男女差が見られ、常に女子の進学率は男子に比べて低い。しかし、女子の大学進学率の上昇には貨幣的効果および非貨幣的効果等期待することができる。これらの点について広義の人的資本論を用いて検討した。59-81頁。
8. 女性学・ジェンダーフォーラム in 2007 — 未来へつなぐ女性学、十人十色、『私』の30年を振り返る	共	2009年12月	日本女性学研究会編 『女性学年報』、第30号	社会的排除問題をジェンダーの視点から考察することによって、日本における社会的に排除されている人々の特定し、それらの人々に対する支援策のあり方について検討した。131-177頁。荒木菜穂、西尾亜希子、堀内真由美、森理恵他
9. 異文化間教育研究とジェンダー研究の接続の可能性—『エイジェンシー』概念の活用を中心に	単	2007年03月	研究代表者 小島勝 龍谷大学文学部教授『異文化間教育に関する横断的研究—共通のパラダイムを求めて』平成16年度~平成18年度科学研究費補助金 基盤研究B(1) 研究成果報告書	アメリカのポスト構造主義の代表的思想家の一人であるJ・バトラーの「エイジェンシー」概念を活用して、「文化」を捉える事ができないか、事例を挙げながら可能性を探った。295-305頁。
10. 英国大学院で学ぶ大学院留学生の動向—首相主導事業(The Prime Minister's Initiative) 開始以前と開始以降の比較	単	2007年02月	有本章・横山恵子編『外国人留学生確保戦略と国境を越える高等教育機関の動向に関する研究—英国・香港の事例』広島大学高等教育研究叢書、89号	ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化することが目指された。本稿では首相主導事業開始以前と以降に見られる留学生の動向をジェンダーの観点から分析した。19-34頁。
11. グローバル化する高等教育におけるジェンダー問題—英国の首相構想(PMI)の影響力に関する一考察	単	2007年01月	広島大学高等教育研究開発センター(拠点リーダー: 有本章)編『21世紀型高等教育システム構築と質的保証』COE最終報告書第一部(下)	ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化することが目指された。本稿では留学生に見られるジェンダー格差に焦点をあて、考察を試みた。120-138頁。
12. Gender Issues in the Globalization of Higher Education: A Study of the Impact of the Prime Minister's Initiative in the UK	単	2006年09月	Research Institute for Higher Education, Hiroshima University (ed.) Gender Inequity in Academic Profession and Higher Education Access: Japan, the United Kingdom, and the United States, COE Publication Series 22	ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化することが目指された。本稿では留学生に見られるジェンダー格差に焦点をあて、考察を試みた。117-132頁。
13. 英国大学院で学ぶ留学生の動向 (PMI以前)	単	2006年03月	広島大学高等教育研究開発センター	ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
とPMI以降の比較)			(有本章) 編『各国における外国人留学生の確保や外国の教育研究機関との連携体制の構築のための取り組みに関する調査』平成17年度 文部科学省先導的学大改革推進委託研究	することが目指された。本稿では首相主導事業開始以前と以降に見られる留学生の動向をジェンダーの観点から分析した。 121-138頁。
14. 女性学教育における教授姿勢の問題：大学の女性学関連講座の受講生による批判から (査読付)	単	2004年05月	『大学教育学会誌』(第26巻 第1号)	本研究では、新聞等で取り上げられた女性学関連科目の担当教員らに対する受講生からの批判内容を整理した後、担当教員らが学生の関心を引くため有効と考え、積極的に採用して来たビデオ鑑賞やロールプレイ等に潜む問題点を示唆した。そして、さらなる教授法の発展には、今まで有効とされてきた教授法の問題点の所在を明らかにすることが不可欠であることを主張した。82-88頁。
15. 大学が担うべき役割の再検討：女子学生に対する就職サポートを中心に (査読付)	単	2003年11月	『大学教育学会誌』(第25巻2号)	女子学生の就職サポートにはロールモデルやメンターの活用が有効であることを、日米英などの研究や教育実践をもとに明らかにした。31-37頁。
16. 大学における女性学教育：教授法に関する現況と課題	共	2003年11月	『大学教育学会誌』(第25巻2号)	大学における女性学教育で用いられる傾向のある教授法について様々な実践報告書をもとに考察し、問題点を明らかにした。65-67頁、西屋亜希子、志水紀代子。
17. 英国大学院で学ぶ日本人留学生の動向：ジェンダーの視点から	単	2003年03月	大阪女学院短期大学紀要』(第32号)	博士論文の第2章を編修したもの。本研究では、日本人留学生の留学の特徴を男女別に明らかにするため、英国で独自に入手した統計を用いて、英国大学院で学ぶ日本人留学生の動向を英国大学院で学ぶ全留学生の動向と比較すると同時に、ジェンダーの視点から分析・考察を行なった。113-125頁。
18. 日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察 (査読付)	単	1999年09月	『日本ジェンダー研究』(第2号)	博士論文の第7章を編修したもの。留学の動機・目的を分析する際、ジェンダーの視点からの考察はほとんどなされて来なかった。ロンドン大学大学院の日本人留学生(男女52名)へのインタビューを基に、留学の動機・目的を性別により分析し、女性特有の問題点を明確化することを試みた。57-71頁。
19. イギリス青年男女のジェンダーによる役割分担に関する考察：ロンドンの青年男女を対象とした事例研究	単	1997年09月	『武庫川女性学研究』(第2号)	家事における性別役割分業の現実を追究するために、アンケートに加えてインタビューを実施し、それらに見られる回答間の差異について検討した。その結果、同じ内容の質問に対し、アンケートでは理想に近い回答が、インタビューでは本音またはより現実に即した回答が得られることがわかり、彼らの抱く分業観の理想と現実には、依然として大きなギャップがあることが判明した。69-83頁。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 女性のキャリア形成教育構想—ライフプランの視点を取り入れる必要性	単	2018年07月21日	京都文化創生機構「フォーラム 男女平等と少子化抑止への対応」	京都文化創生機構主催の同フォーラムに非会員としての招聘を受けた。女子大学生が描く理想の生き方と女性の生き方の現状のギャップを明らかにし、そのギャップを埋めるためには従来のキャリア教育にライフプランの視点を入れることが不可欠であることを明らかにした。(同志社大学志高館)
2. Global Approaches to Widening Access from across the UK	共	2016年6月30日	Forum for Access and Continuing Education (FACE) 23rd Annual Conference	FACE会長のイースト・ロンドン大学J. ストラン教授によりラウンドテーブルセッションのパネラーとしての招聘。今大会のテーマである”Widening participation within the context of economic and social change: engaging applicants and empowering students to create successful graduates (経済・社会が変化する中で広がる参加：成功する卒業生を輩出するために進学希望者に関わり、学生をエンパワーする)”に関して、アメリカ、イギリス(イングランドと北アイルランド)、オーストラリア、スウェーデンからの報告者らと議論した。西尾は、日本の高等教育事情を概観した後、高学歴女性と労働市場の関係について報告した。(Queen’s University

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
3. 大学生の金融リテラシーを高めるための教育実践—ジェンダーの視点から	単	2015年09月	日本心理学会第79回大会	Belfast, Northern Ireland, UK) 招聘シンポジストとして「ジェンダーで学ぶ・アクティブ・ラーニング」というテーマについて議論した。その中でジェンダーで学ぶ『アクティブ・ラーニング』（2016年刊行）の西尾著「第8章キャリアと金融リテラシー」の一部と関西3大学の学部生を対象に実施した金融リテラシーに関する調査結果をもとに「親近感」と「リアリティ」のある題材を扱う教育を「継続的」に実施していくことの重要性について述べた。（名古屋国際会議場）
4. 生活の質を考える—ジェンダーの視点から	単	2013年04月	Pas A Pas（大阪を拠点とする健康的な生き方に関する女性活動グループ）	ここ数十年アメリカやカナダ等の先進諸国において生活の質や幸福に関する研究が盛んになっている。今日では日本においてもその傾向が見られるようになってきた。一方でこれらの研究にはジェンダーの視点が欠けていることは否めない。本講演では人々がどのような事柄に対して、どのような時に、どのような場面で幸福を感じるのかに関する先行研究の整理を行った後、ジェンダーによる違いが明らかな事柄について考察を行なった。（リーガロイヤルホテル）
<b>2. 学会発表</b>				
1. Tackling Loneliness in Higher Education: A Comparative Study of the UK and Japan, Focusing on LGBTQ+ Students	単	2023年11月22日～24日	World Education Research Association (WERA) 2023 Meeting in Collaboration with ERAS	科学研究費補助金（JSPS科研費 JP20K02498）関連の研究成果を今後の研究につなげるための足掛かりとしての報告である。23-24 November 2023, National Institute of Education (NIE), Nanyang Technology University (NTU), Singapore)
2. なぜ大学でLGBTQ+学生の孤独問題は放置されるのか—大学生と教員のメディア利用行動における世代間格差に焦点をあてて	単	2023年9月2日	日本ジェンダー学会第27回大会	科学研究費補助金（JSPS科研費 JP20K02498）関連の研究成果の一部として、大学でLGBTQ+学生の孤独問題が放置される理由について、大学生（Z世代）と教職員（ミレニアル世代以前）のメディア利用行動における世代間格差に焦点をあてて検討した。（神戸学院大学）
3. アメリカの大学生のライフプランに見るキャリア教育の課題—西部X州立大学の学生が作成したライフプランの分析を中心に	単	2019年09月12日	日本教育社会学会第71回大会	アメリカの大学生にライフプランとそのライフプランを見て感想を書いてもらい、グループディスカッションおよびクラスでのディスカッションを行ってもらった。その際の発言についてM-GTAにより分析し、彼らがどのようなライフプランを描き、生きていこうとしているのかを考察することにより、日本のキャリア教育のあり方や課題を考える上での示唆を得た。（大正大学）
4. Student perception of personal finance: a comparison across genders and major fields of study	単	2016年06月30日	Forum for Access and Continuing Education (FACE) 23rd Annual Conference	科学研究費補助金（2012-2014）関連の研究の成果の一部として、関西の3大学で学ぶ56名の大学生がパーソナルファイナンスの捉え方の共通点と相違点についてジェンダーと専攻分野の観点から考察を試みた。（Queen's University Belfast, UK）
5. 商学部・経済学部女子に学ぶパーソナル・ファイナンス教育のあり方	単	2014年09月	日本教育社会学会第66回大会	女子の大学進学者の増加に伴い、奨学金を借りる女子学生は増加しているにもかかわらず、労働市場における男女間格差があるため、奨学金の返還の見通しは女性であるがゆえに立てにくい。そうである以上、従来、お金のことは男性に任せがちであった女性こそ、ファイナンシャル・リテラシーが必要になってきている。本研究では、関西の3大学に在籍する大学生のパーソナル・ファイナンスやキャリアデザインに関して実施した面接調査の結果をもとに、特に女性にとって必要と思われるパーソナル・ファイナンス教育のあり方について検討した。（愛媛大学・松山大学）
6. 大学生の奨学金受給行動とその要因に関する研究—関西3大学での面接調査から	単	2014年06月	日本高等教育学会第17回大会	今日、大学生の2人に1人が貸与型奨学金を受給している。奨学金が「借入金」であることや、「借りること」の負担やリスクについて十分な知識や覚悟もないまま、借りているのではないかと、いくらからいを、なぜ借りているのか、返還についてどのような計画を持っているのかについて質的調査より明らかにした。返還計画を十分持

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
7. 女子大学生のキャリアプランと進路選択に対する自己効力、経済的自立志向、基本的信頼感との関連	単	2013年09月	日本心理学会 第77回大会	たないまま、結婚・出産となれば、奨学金の返済に追われている親が子どもを奨学金を借りよう追い込むことになる。世代を通じて返済に追われるという自分たちの親世代以前パーソナルファイナンス教育の導入の重要性について検討した。(大阪大学豊中キャンパス)
8. 女性の貧困予防策としての金融教育—諸外国の取り組みから	単	2012年09月	日本ジェンダー学会	研究の結果、自己効力や基本的信頼感を高めるような教育が必ずしも女性の就労継続の意志にはつながらないことが示唆されたため、経済的自立心を養えるようなキャリア教育を実践していくことが重要であると提言した。ポスター発表、松並知子、西尾亜希子(札幌市産業振興センター)
9. Learning about gender: A survey of interests at a women's university	共	2011年05月	Gender Awareness in Language Education (GALE) Conference、	イギリスのシティズンシップ教育と金融教育の関連を中心に欧米諸国と日本の金融教育の現状について比較研究を行い、日本の金融教育への示唆を探った。(とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ)
10. 成人女性に対する高等教育供給プログラムの検討—英国の「高等教育へのアクセス」からの示唆	単	2010年06月	2010年度日本女性学会大会	162 female university and junior college students were given a written survey. The survey featured qualitative and quantitative questions that focused on topics of interest, identifying important issues for Japanese women, preferred classroom activities, and the overall impact on students of studying gender. Akiko Nishio, Jhana Bach, Tomoko Matsunami. (京都大学)
11. 社会的排除と高等教育政策に関する国際比較研究—高等教育の経済的効果の視点から	共	2010年03月	(財)全労災協会	わが国における成人女性に対する高等教育供給プログラムの合理性を広義的的人的資本論を用いて明らかにした上で、そのあり方について英国の「高等教育へのアクセス」コースから示唆を得た。(大阪府立男女共同参画・青少年センター [ドーンセンター])
12. 潜在的需要に応じた高等教育供給プログラムの合理性とその検討	共	2009年06月	日本高等教育学会第12回大会	(財)全労災協会による2009年度の公募委託調査研究として行った研究の結果報告を行った。高屋定美、西尾亜希子。(全労災協会会議室)
13. 社会的排除・ジェンダー・教育—英国における取り組みと日本への示唆	単	2007年12月	日本女性学研究会30周年記念 女性学・ジェンダーフォーラム in 2007	(財)全労災協会による2009年度の公募委託調査研究として行った研究の中間報告として、A. センのケイパビリティ・アプローチを使って高等教育供給プログラム構築の意義を考察した。西尾亜希子、高屋定美。(長崎大学)
14. 異文化間教育における『文化』の捉え方	単	2007年06月	異文化間教育学会第28回大会(ケース/パネル・パネル)	社会的排除とジェンダーの問題を教育的な観点から考察し、社会的排除問題に積極的に取り組む英国政府の取り組みから日本への示唆を得た。(大阪府立女性総合センター [ドーンセンター])
15. 女性の大学型高等教育進学を妨げる要因の考察	単	2007年05月	日本高等教育学会第10回大会	異文化間教育学における「文化」の捉え方について、グローバリゼーションが進展する中、これまでありがちだった本質主義的な捉え方の問題を指摘した。(目白大学新宿キャンパス)
16. グローバル化する高等教育におけるジェンダー問題: 英国PMI以前と以降における大学院留学生の動向比較から	単	2006年12月	同志社大学教育文化学会第16回年次大会	北欧諸国など、欧米諸国の中には成人女性の高等教育進学者が多いこともあり、女性の進学率の方が高い国が存在する。しかし、日本の場合は依然として、女性の進学率の方が低い。その理由を整理し、それらの問題点について考察した。(名古屋大学)
17. 女性大学の理工学系分野進出の意義と問題	単	2006年09月	日本ジェンダー学会第10回大会	英国のブレア政権下では、大学院留学生を中心に留学生の受け入れを積極的に行うことにより、自国の政治・経済の進展させようとしているが、留学生の出身国による偏りは言うまでもなく、教育段階、ジェンダー等によっても著しい偏りが見られる。本報告では英国の留学生の動向について、特にジェンダーの観点から問題点を明らかにした。(同志社大学新町キャンパス)
				女性大学人気の低迷により、定員割れする大学が相次いでいる中、数は少ないものの理工学系の学部・学科を開設することによって活路を見出している大学もある。それらの大学に共通する理念は何か、理工学系分野進出の意義と問題は何かについて明確化を試みた。(神戸大学六甲台キャンパス)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
18. 英国大学院で学ぶ留学生の動向とジェンダー：PMI以前と以降の比較を通じて	単	2006年06月	大学教育学会第28回大会	英国大学院で学ぶ留学生の動向について、英国の高等教育統計局(HESA)から独自に統計を入手し、ジェンダーの観点から考察を試みた。(東海大学湘南校舎)
19. 異文化間教育に関する横断的研究：共通のパラダイムを求めて	単	2006年06月	異文化間教育学会第27回大会(ケース/パネル・パネル)	異文化間教育のあり方を探るにあたって、ジェンダー教育との共通点と相違点について明確化を試みた。特に本質主義については疑問を呈し、多様性に注目することの重要性を指摘すると同時にそれだけでも問題があることについて言及した。(関西大学高槻キャンパス)
20. 国境を越える高等教育機関の動向と政府の国際化戦略：英国・香港の事例	共	2006年05月	日本高等教育学会第9回大会	広島大学のCOE研究の共同研究者として、英国の高等教育機関の動向と政府の国際化戦略について、ジェンダーの観点から試みることを要請された。有本章、横山恵子、大膳司、西尾亜希子。(学術総合センター)
21. 大学における女性学教育：教授法に関する現況と課題	共	2003年06月	大学教育学会第25回大会	ラウンドテーブルで女性学がなぜ浸透しないのか、自省的に考える機会を持つということを目的に研究発表を行った。西尾亜希子、志水紀代子。(大阪薬科大学)
22. 今日の大学の大量化と大学教育：将来の市民の育成のために	単	2003年06月	大学教育学会第25回大会、シンポジウム(シンポジスト)	博士論文執筆の際に調査対象としたロンドン大学院で学ぶ日本人留学生の動向や6年間にわたる自身の留学生活で見聞したことをもとに、日本の文化や伝統あるいは「当然」、「自然」、「当たり前」と捉えられている事象がそうとは限らないこと、そのような捉え方を批判的に捉えることによって既存の枠に捉えられない自由な発想の若者が育成される可能性があることを事例を挙げながら報告した。(大阪薬科大学)
23. ロンドン大学大学院における日本人留学生の進路希望について：ジェンダーの観点から	単	2002年06月	異文化間教育学会第23回大会	博士論文の一部を発展させるかたちで報告した。本報告では、男子学生は留学前および留学中から脱サラ、起業、国際開発分野に従事等課程修了後の進路希望が明確で、日本での就職にこだわらない傾向が見られたが、女子学生の場合は男子学生と同じようなグループと語学留学ではない正規留学をすること自体が留学の目的(「文化的旅行」と捉えることができる)になっており、進路希望が明確でないグループに2極化していた。(駿河台大学)
24. Power Politics and the Cultural Creativity of Women in Japanese History : Transition from the pre-warrior to the post-warrior period'	共	1999年06月	Women's Worlds 99: the 7th International Inter-disciplinary Congress on Women	「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業観は、他の先進諸国と同様、日本でも比較的新しい考え方であることを歴史的に証明するために、様々な先行研究(画像を含む)をもとに報告した。富士谷あつ子、西尾亜希子。(University of Tromso, Norway)
25. イギリス大学院で学ぶ日本人留学生が直面する問題・ジレンマの考察：ロンドン大学大学院生を対象とした事例研究	単	1999年05月	異文化間教育学会第20回大会	博士論文の一部について中間報告を行った。本報告では留学生はIELTSやTOEFLで高スコアを出していてもネイティブの学生と「対等に」ディスカッションしたり、論文を書いたりできないジレンマを最も強く感じていること、私的な問題(特に家族)が勉強に集中する上で強い影響を与えていることについて考察した。(鳴門教育大学)
26. Studying as a Foreign Student in London: A case study of Japanese male and female postgraduate students at the University of London	単	1999年04月	Euroconference: Gender, Higher Education and Development	博士論文の執筆にあたって実施したロンドン大学院で学ぶ日本人留学生(男女52名)を対象とした面接調査の一部について中間報告を行った。(University of Oxford, UK)
27. イギリス青年男女のジェンダーによる役割分担に関する考察：ロンドンの青年男女を対象とした事例	単	1997年07月	女性学・ジェンダー研究フォーラム	イギリスの若者の性別役割分業観を調べるために実施した男女計12名を対象に質問紙調査と面接調査をもとに、質問紙では「理想的な回答」あるいは自分を切り離れた「第3者的な回答」を、面接調査では「本音」と思われる回答をする傾向があることを明示した。(国立婦人教育会館)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
研究				
<b>3. 総説</b>				
1. Engaging with FACE : an international perspective	単	2017年2月27日	Forum for Access and Continuing Education, FACE Monthly e-Bulletin, Issue No. 110, February 2017	2016年6月にアイルランドで開催されたFACEの大会で'Global Approaches to Widening Access from across the UK'と題されたラウンドテーブルセッションのパネラーとして出席した際に西尾が報告した日本の高等教育事情や高学歴女性と労働市場の関係、およびパネラーらとの「高等教育における広がる参加」に関する議論についてまとめたもの。
2. なぜ女性社長には留学経験者が多いのかー女性社長の生き方に学ぶ	単	2012年05月	日本学生支援機構編ウェブマガジン『留学交流』vol. 14.	留学経験のある女性社長は多くの女性と何が違うのかについて女性社長15名について調べ、女子学生が留学を含むキャリアデザインをする上での示唆を得た。論考（日本学生支援機構からの依頼原稿。）
3. Another Side of the Globalisation of Education: female postgraduate students studying at the University of London	単	2002年12月	大阪府立女性総合センター編『Dawn』(December 2002)	博士論文の概要を国内外の一般の読者向けにわかりやすく説明したもの。グローバル化する高等教育において、女性の学位留学は能力が高く、語学留学では物足りないと感じる女性の間で人気が高く、高度な文化的旅行のような感覚に基づいている傾向があることを明らかにした。論考（大阪府立女性総合センターからの依頼原稿。）4-5頁。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 「男性のジェンダー平等意識をどう育むか」	共	2023年6月	ジェンダー平等推進機構編著『議員と語ろうー政治分野におけるジェンダー平等の推進』	富士谷あつ子・香川孝三・新川達郎・シモン・サルヴラン・進藤久美子・伊藤公雄・小縣早知子・上杉孝實・西尾亜希子・塚本利幸・大東真生・西野悠紀子。80-82頁担当。 2023年3月6日に自由民主党、立件民主党など主要政党7政党の国会議員および地方議会議員と研究者がジェンダー平等の推進について話し合った。西尾は本報告書の中で、「ジェンダー平等」（あるいは「男女平等」）といわれる時、「女性のための平等」と理解され、女性の地位をどう高めるかという話になりやすい中、男性のジェンダー平等意識を育むことの重要性について述べている。
2. 「日本学術会議におけるトランスジェンダー議論と奈良女子大学へのトランスジェンダー学生受け入れ経緯とその準備：三成美保教授へのインタビューから」	共	2023年1月	武庫川女子大学教育研究所『教育研究レポート』第53号	三成美保・西尾亜希子・安東由則 三成氏は法史学を専門とする、ジェンダー視点を取り入れたジェンダー法史学の日本におけるパイオニアであり、家族制度やLGBTQに関する比較歴史研究などを意欲的に推進している。法史学を専門としており、ジェンダー視点を取り入れたジェンダー法史学の日本におけるパイオニアである。また、2014年から日本学術会議会員となり、2017~2020年まで副会長を務め、この間、法学委員会・社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会の長として、二度にわたり『性的マイノリティの権利保障をめざして』と題する報告書を発刊している。日本学術会議におけるトランスジェンダーへの対応に関する議論および奈良女子大学へのトランスジェンダー学生の受け入れの経緯とその準備についてインタビュー調査を実施した。1-16頁。
3. 書評『女性研究者支援政策の国際比較ー日本の現状と課題』（河野銀子・小川真理子編著 横山美和・大坪久子・大濱慶子・財部香枝著）	単	2022年9月	『日本ジェンダー研究』第25号、日本ジェンダー学会	日本の女性研究者支援政策の現状と課題について、豊富なデータと関係者へのインタビューによる国際比較を通じて的確に示し、国レベルで女性研究者支援に取り組む必要があることを示す好著である。
4. 報告「宮城学院女子大学におけるトランスジェンダー学生の受け入れ経緯と準備ーキーパーソンへの聞き取り調査からー」	共	2022年3月31日	武庫川女子大学教育研究所『教育研究レポート』第52号（2022年3月）	末光真希・戸野塚厚子・栗原健・大泉有香・西尾亜希子・中尾賀要子・安東由則（編者）。1-20頁。



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
5. スミス・カレッジにおける起業家活動・金融教育の取り組み－ヒープロウ氏へのインタビューから－	共	2020年03月31日	武庫川女子大学教育研究所『研究レポート』50号	Rene C. HEAVLOW・西尾亜希子・安東由則 安東由則（監訳・編集）、1－27頁。
6. 報告「スミス・カレッジにおける起業家教育・金融教育の取り組み：ヒープロウ氏へのインタビューから」	共	2020年03月18日	安東由則教育学部教育学科教授	ヒープロウ, R., 西尾亜希子・安東由則（安東監訳）186-209頁。「Heavlow氏へのインタビュー調査結果からの示唆」の執筆担当。安東由則教育学部教育学科教授「女子大学の存立意義とサバイバルストラテジー：日本・アメリカ・韓国の国際比較」科学研究費助成事業 基盤研究（C）課題番号15K04327 研究成果報告書、全255頁。
7. 書評『女性学・男性学ジェンダー論入門』（伊藤公男・樹村みのり・國信潤子著、2019年、有斐閣アルマ	単	2020年02月29日	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 『カテゴリー・エッジー ジェンダー問題解決のカギを提示する最前線書誌情報誌』、第68号	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ情報課からの依頼原稿。書評（500字）とキーワード解説（250字）を行った。キーワード解説は、同書中のキーワードを1語選び、その語の説明文をジェンダーの視点から執筆したもの。
8. 報告「スミス・カレッジにおける学生支援の取り組み：オートニッキー氏とショー氏へのインタビューから」	共	2019年03月	武庫川女子大学教育研究所『研究レポート』49号	オホートニッキー, J.・ショー, B.・安東由則（監訳）・西尾亜希子、41-62頁。 米国スミス・カレッジにおいて実施した、トランスジェンダーの学生をはじめ、人種や宗教など様々な背景を持つ学生の生活支援の様子に関する面接調査の結果についてのまとめである。同カレッジは米国内屈指の女子大学であることもあり、アフリカや中東からの留学生も多い。その一方で、学生たちは原則キャンパス内に点在するHouseと呼ばれる戸建て住居に住むことになっているため、大学側からすれば、先述したような点について配慮しなければならない。学生のウェルビーイングを保障するため、学生によっては小動物の同伴を許可しなければならない場合もあり、多様な支援を求められる。大変だが、やりがいもあるという。報告は、安東由則教育学部教育学科教授の監訳によりまとめたもの。
9. 報告「スミス・カレッジにおけるトランスジェンダー学生の受け入れ議論：スミス副学長とシェイパー氏へのインタビューから」	共	2019年03月	武庫川女子大学教育研究所『研究レポート』49号	スミス, A.・シェイパー, D.・安東由則（監訳）・西尾亜希子、23-40頁。 米国スミス・カレッジにおいて実施したトランスジェンダーの学生を受け入れるまでの学内外の反応と対応、その後の学内整備などに関する面接調査の結果について、安東由則教育学部教育学科教授の監訳によりまとめたもの。
10. 書評『なぜジェンダー教育を大学で行うのか－日本と海外の比較から考える』（村田晶子・弓削尚子編著、青弓社、2017年）	単	2018年09月	『日本ジェンダー研究』第21号、日本ジェンダー学会	北米、フランス、中国、日本の第一線で活躍する研究者らが大学におけるジェンダー教育の歴史的経緯と現況や、男性学・男性性研究の教育的意義について執筆している同著を書評した。男女共同参画社会の実現、女性活躍が期待されるわが国において、大学でジェンダー教育を行うことの意義はきわめて大きい。
11. 報告書作成協力『女子教育・女子大学（校）存続・拡充のための理論武装』	共	2018年01月	武庫川女子大学教育研究所	友田泰正教育研究所長が同報告書を執筆するにあたって、安東由則教育学部教授とともに研究所員および研究協力者として知識提供を行った。
12. 書評『日本のジェンダーを考える』（川口章著、有斐閣選書、2013年）	単	2014年08月	『日本ジェンダー研究』第17号、日本ジェンダー学会	川口章同志社大学教授による同著を書評した。本著は学校教育、就職、結婚、出産、子育てなど様々なライフイベントに、ジェンダーがいかに深く関わっているかを論じているが、労働経済学を専門とする研究者らしく、それらのライフイベントを「キャリア」の視点から考察している点が新しいことを指摘した。93-95頁。
13. 書評『異文化を知るこころ：国際化と多文化理解の視座から』（奥川義尚、堀	単	2004年06月	『異文化間教育』20号、異文化間教育学会	奥川義尚京都外国語大学教授らによる同著を留学経験や、日本人留学生が留学中に直面する問題について学業面だけでなく、私生活面にも焦点をあてて考察した経験を活かしながら書評を行った。94-98頁。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
川徹、田所清克編、世界思想社、2003年)				
14. 翻訳 『ジェンダー学を学ぶ人のために』（富士谷あつ子、伊藤公雄監修）	単	2000年04月	世界思想社	D. レナード著「イギリスにおける女性学の流れ」、36-58頁の翻訳を担当。イギリス女性学の第一人者であり、西尾の修士論文・博士論文の指導者であったレナードロンドン大学教育研究所教授による女性学の広がりに関する論文を翻訳した。36-58頁。 修士課程、博士課程を通じ論文指導教官であったダイアナ・レナード教授の著書。53-54頁。
15. 書評 Familiar Exploitation: A New Analysis of Marriage in Contemporary Western Societies (by Christine Delphy & Diana Leonard, Cambridge: Polity Press, 1992, 301pages)	単	1996年03月	『武庫川女性学研究』（創刊号）武庫川女子大学女性学研究会	
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (一般)	共	2020年04月1日～現在	文部科学省および日本学術振興会	研究分担者。研究代表者は安東由則教育研究科長、他の研究分担者は中尾賀要子教育研究所准教授。テーマは「大学におけるトランスジェンダー学生の受け入れ課題：日米の女子大学事例を中心に」である。
2. 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	単	2020年04月～現在	文部科学省および日本学術振興会	研究代表者。課題番号は20K02498、テーマは「セクシュアリティによる困難を抱える大学生のキャリア支援方法の開発」である。
3. 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	共	2017年4月～2021年03月	文部科学省および日本学術振興会	研究代表者。課題番号17K04900 テーマは「女子大学生のための『お金』の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの開発」、共同研究者は高屋定美関西大学商学部教授。
4. 科学研究費補助金学内奨励金	単	2015年07月～2016年03月	武庫川女子大学	テーマは「女性のためのパーソナル・ファイナンス教育モデルの構築」である。
5. 科学研究費助成金 基盤研究 (C)	単	2012年04月～2015年03月	文部科学省および日本学術振興会	研究代表者。課題番号24531084。テーマは「女性の貧困予防策としての教育のあり方に関する実証的研究」である。（研究協力者は松並知子武庫川女子大学非常勤講師。）
6. 科学研究費補助金学内奨励金	単	2010年10月	武庫川女子大学	テーマは「アメリカの女子大学におけるリーダーシップ教育に関する実証研究—スミス・カレッジを中心に」である。
7. 公募委託調査研究費	共	2009年12月～2010年09月	(財) 全国勤労者福祉・共済振興協会 (財団法人全労済協会)	共同研究。共同研究者は高屋定美関西大学商学部教授。テーマは「社会的排除と高等教育政策に関する国際比較—高等教育の経済効果の視点から」である。
8. 科学研究費助成金 基盤研究 (B)	共	2004年04月～2007年03月	文部科学省および日本学術振興会	研究協力者。研究代表者は、小島勝龍谷大学文学部教授で、テーマは「異文化間教育に関する横断的研究-共通のパラダイムを求めて」である。佐藤群衛、塚本恵美子、村田雅之、山本雅代、鈴木一代、馬淵仁、渋谷真樹他。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2023年10月1日～現在	日本ジェンダー学会副会長
2. 2023年9月2日	日本ジェンダー学会第27回大会（神戸学院大学）実行委員
3. 2023年7月15日～現在	World Education Research Association (WERA)
4. 2020年01月～2020年09月	日本ジェンダー学会『日本ジェンダー研究』 編集委員
5. 2019年9月～現在	日本ジェンダー学会事務局次長
6. 2019年01月06日2019年09月23日	日本ジェンダー学会第22回大会（同志社大学）実行委員
7. 2019年01月～2020年09月	日本ジェンダー学会『日本ジェンダー研究』 編集委員
8. 2012年11月～2013年10月	Special Japanese Editorial Assistant of GALE Journal
9. 2012年09月～2013年08月	日本ジェンダー学会誌『日本ジェンダー研究』編集委員長
10. 2011年09月～現在	日本ジェンダー学会理事
11. 2011年09月～現在	日本ジェンダー学会誌『日本ジェンダー研究』編集委員
12. 2003年06月～現在	日本教育社会学会
13. 2002年05月～現在	日本高等教育学会

学会及び社会における活動等

年月日	事項
<b>6. 研究費の取得状況</b>	
14. 2001年09月～現在	大学教育学会
15. 1998年09月～現在	日本ジェンダー学会
16. 1992年06月～現在	日本女性学会